

# 昭和小学校のボランティア制移行について

昭和小学校でのボランティア制移行へのお話です。

## 1.児童数減少や同じ人が何回もなる役員

2017年頃より昭和小学校では、児童数の減少や共働き世帯が増えたことなどで、PTAの役員になり手がいなかったこと、そのことにより同じ人が何年も続けて役員を担っていることに負担が大きくなり、PTAの活動を見直すこととなりました。

まず最初に行ったのは、2018年度に会員宛てにPTA活動についてのアンケートを取りました。その結果、負担があると感じている方や見直しが必要と感じている方が少数ですがいて、その中でも当時あった母親委員会と研修委員会を統合する意見が出ました。

結果、2019年度に臨時総会を開催し、母親委員会と研修委員会を統合し、家庭教育委員会となり、委員会を1つ減らしたことにより、なり手の委員を減らすことに成功しました。

また同時にその他の委員会でも例年同じような活動をしており、その活動目的が議論されていないこともあり一度すべて無しにして本当に必要なものは何かを見極める必要があるのでは？と本部役員の中でも話が出ました。学年委員を廃止し、その代わり1年間に1度は全員どこかに参加するというルールを設けようという話でした。

2019年度末には、コロナが大流行し、学校も休校となり、PTA活動もSTOPしました。新役員も2020年度の6月からしか活動できなかった上に、活動も大幅に制限されました。この間、PTA本部役員より前例踏襲という考え方を捨て、その時代や状況に即したPTAの運営を行うために必要な組織改革を行うという話が出ました。縮小や廃止が目的ではなく、必要なものは予算と人員を拡充するという概要でした。ただ組織改革のための規約改正は書面審議で行い、総会は組織改革の説明会と質疑応答という形を取ったため、急な組織改革を感じた会員もいました。

## 2.見直しされる委員会と次年度委員の見直し

2020年は何とか委員会活動を見出しながら当時の委員の皆さんは活動を行っていましたが、なり手不足は否めず、特に本部役員のなり手は役員自らが後任者を探したり、声をかける事ではなく、中々いなかったことも多く、委員会活動の見直しとなり手不足の解消のため、2020年度は一つの改革として、委員会委員長は次年度より本部役員とならないこと、また次年度本部役員や委員会メンバーを新4年生の保護者より抽選するという案が出ました。また、委員会メンバーも学年を限定したことにより、人数の見直しも行い、少ないメンバーで最低限の活動が見込めることが分かりました。

新4年生とした経緯は、6年生では翌年卒業や2年継続して出来ないこと、1年生や2年生ではまだPTAに慣れていないことが挙げられ、ある程度学校の事を理解できているであろう、新4年生が向いているのでは？という声より決定いたしました。

中々、学校へ集まることが出来なかったコロナ禍だったこそ、委員会の形や委員のメンバーについて、議論が出来たのであろうと思われれます。また、改革については動画配信なども含め会員の取りこぼしが無いよう努めました。重ねて、学校側からも見直しについて理解を頂けたことは大きかったと思います。

### 3. ボランティア制への移行について

2021年度は、引き続きコロナ禍であったこともあり、委員会活動も以前のような形とはならなかったものの、各委員会が少ないメンバーで出来る事を行いました。LINE オープンチャットの活用も行い、これにより、委員会の見直しが出来たように感じましたが、委員長が本部役員会に出席したりと、まだまだ負担も大きく中々理想の形とはならなかったです。

本部役員会としては、会員の皆さんが自由に本部役員会を見られるように、オブザーバーとして本部役員委員会を見学できたり、Webex を使用し、家でも見られる本部役員会にしたりすることを行いました。

2022年度は縮小した活動の2年目となり、本部役員会でさらに活動の見直しを行い、ボランティア制への移行と本部役員会の活動の見直しについて話をしてきました。2022年度の改革は会員の皆さんの声を聞くこととし、6月に会員向けPTAアンケート作成、9月に各会員へ配布、11月にアンケート結果が出て、これにより12月にボランティア制への説明会と役員選出についての説明会が実施されました。

アンケート結果は、2018年度と比べるとボランティア制への賛成数も多く、活動も残して欲しいと思うが、自分が活動したいとなると賛成数が少なくなり、結果活動を残せないなどがありました。2021年に実行委員会を作りましたので、その他の委員会は全て廃止(地区委員会は別と考えております)となり、実行委員会がボランティアの統括を行う事で、活動は見込めると判断しました。

改革を進める時に、一緒に本部役員会の活動の見直しも行い、会長が一人で外部への出席などを抱え込むのではなく、それぞれ適材適所に活動することにより、仕事の分担が出来、どんな方でも初めて役員になっても活動出来るPTAを目指しました。今まで、まちづくり市民会議に会長が参加していましたが、副会長と地区委員長に参加して頂き、地区の方とのつながりも考えました。

この改革をするにあたって大事にしたのは、ただ単に保護者の負担を減らすことだけを目的とせず、「できる人が できるときに できることを」を基本軸にし、子どもたちが楽しく通える学校作りのお手伝いとして、また、保護者が子どもとの時間を大切にしていけることを基本とする活動が行えるように円滑に進めていくことにしました。

### 4. 今後の課題について

2023年度、ボランティア制の活動が始まりました。会員の皆さんのアンケート結果により残ったボランティア活動の募集も5月に終わり、皆さん快く手を挙げて下さいました。今後は実行委員会を中心として、会員の皆さんがしたいことがなるべく出来るように、また学校と調整をしながら見守っていきます。またボランティアの企画も挙げて頂きました。それについては6月に本部役員会で話し合うことになっています。

今年度の本部役員会は、お子さん連れの参加も可能としました。本部役員会のために、お子さんを置いて参加することはPTA活動として間違っていると感じたからです。子どものための活動なのに子供をないがしろにすることは、ただの負担でしかありません。なので、お子さん連れの活動もOKとしました。さらに昨年度と同じようにLINE オープンチャットを活用し、

次回までの本部役員会の期間が空いてしまっても、すぐに質問や承諾が得られるようにし、集まらなくても出来る活動を行っております。また、PTA 連絡用の LINE オープンチャットも試験的にですが活用しており、会員の皆さんにすぐに連絡出来るようにしております。またこれは PTA 本部役員が何の活動をしているかの一つの案内にもなっています。また PTA についての質問は PTA メールを使用し、いつでも会員の皆さんからの質問にお答えできるようにしております。SNS の活用によって少しでも PTA を身近に感じて頂けるように努めております。

今後の課題としては、今年度はこのボランティア制が軌道にのるように筋道をつくっていくこと。また、改革した人が役員としていなくなっても、誰がなっても同じように思いやりの心を持って PTA 活動を進めていけるようにすることでしょうか。

## 5.PTA に関われたからこそみれる景色

PTA の話題は日本中にあります。私も子どもが小学校に入るまでは、小 1 で委員をやって終わろうと考えていました(笑)まさか、こんなに PTA に関わることになるとは思っていませんでした。(2019 年に母親委員、2020 年広報委員長、2022 年 PTA 副会長、2023 年 PTA 会長)

PTA に関わって良かったと思うのは、学年の違う保護者さんと知り合えたこと。そして、いつでも同じ小学校に通う子どものために何かしら出来ないかと思い活動できること。それが巡り巡って自分の子どものためにもなること。学校の現状を知ることができるので、先生の大変さも共感出来ます。私は現役社会人大学生でもあるので、沢山大変なことは多いですが、PTA に関われたからこそ見れる景色もあります。大学が社会福祉学科なので、とても勉強になり、本当に有難く思っています。

PTA はボランティアです。活動をしなければ確かに終わっていくものですが、私はせっかくなら活動して色々見て感じて頂き、PTA の良さを実感して頂ければと思っています。ですが、無理に参加したり、子どもや家庭を犠牲にすることではないですし、活動も出来ないことはしなくてよいと割り切って活動するのが良いと思っています。今後、ボランティア制の学校も増えていく事でしょう。その際は、是非「～しなければならない」ではなく「この活動はどう子どもに役立っているのか?」「先人がされた活動はどういう意味だったか?」などを感じて頂き、そして「現代に沿っているのか?」「会員への負担はどうか?」「継続できる活動か?」を見据えて考えて頂ければと思います。

PTA は「できる人が できるときに できるとことを」で大丈夫です。会員の皆様がその活動をしてくださることにより、その姿を見たお子さんがボランティアの心を育み、未来につながっていくことになると私は信じております。

昭和小学校 PTA 会長 水野美穂